

# 地域のために20年 今後も見守り続ける



## Profile ふじもと・くにはる

昭和6年6月5日生まれ。平壤で生まれ、幼少期から終戦にかけ釜山、天津、張家口(蒙古聯合自治政府の首都)で過ごす。帰国後に家族で富の原地区へ入植。区長や民生委員をつとめ、公民館の設立にも関わるなど地域のために動き続けた。泗水・富の原西区在住。87歳。

富の原西区に建つ開拓記念碑の前で

富の原西区老人クラブの会長を20年の節目で退任。長年の功績が評価され、昨年10月に特別功労の表彰を受けた。近年は多くのクラブで参加者が減り、解散する団体も。「心の拠り所として活動する人も多い。時代に合う形でいいので、存続するよう願います」

農業指導者の父が赴任した、当時日本領の平壤生まれ。太平洋戦争時は「中学に入学すると、動員先で銃の点検整備を命じられてね。勉強したくてもできない時代だった」。張家口市でソビエト軍の侵攻を迎え撃つ準備中に終戦。工場跡や収容所を転々とし、年末に船で焼け野原の博多に上陸した。「日本の内地は墓参りで1度来たのみ。帰国と言っても不思議な感覚」と振り返る。

昭和25年には、旧陸軍航空通信学校跡だった泗水町富の原西部地区に両親や家族で入植。開拓団として、滑走路や建物が残る地を耕し住居や農地をつくり、まちの基礎を築いた。今では西地区で当時を知る唯一の住民。苦労した過去に「昔の記憶ほど鮮明に覚えている。一生懸命に生きてきた証かな」

俳句を嗜む父母の影響で、幼少期から句作。「紙と鉛筆をポケットに入れ、開墾しながら詠みました。俳句はどこでも作れるのが魅力です」。17年前にガンを患い舌の一部を切除。死も覚悟したが「多くの仲間が存在が、私を生かしてくれた」。区長の尽力もありようやく見つけた後任に会長を委ねて安堵の表情に。「これからは、ゆっくり自分を見つめていきたいですね」

## 「菊池人」 希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人など、菊池で頑張っている人を募集します。本市在住であれば自薦・他薦は問いません。詳しくは市長公室までお問い合わせください。

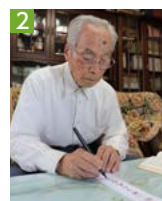
### 問い合わせ先

市長公室広報交流係  
☎ 0968 (25) 7252

菊池人  
71

元富の原西区老人クラブ会長

藤本 邦治さん



1\_昭和15年に釜山で撮影した家族写真(左が邦治さん) 2\_泗水の「せせらぎ俳句会」に昭和30年代から所属。本紙「文芸きくち」のコーナーにも掲載している 3\_老人クラブ会長として市から特別功労の表彰を受ける